

飲水思源

町長 松岡市郎

美しい輝きとは

韓国ピョンチャン・オリンピックが終わった。今回の大会ではスケートなど北海道の選手が頑張った過去にないメダルの獲得数となり、本場に栄誉を称えたい。

こんな中、本町とゆかりの深いスノーボード競技の竹内智香選手が出場していた。ロシアアンチ・オリンピックでは銀メダルを獲得し、今回は金メダルに挑戦して残念ながら5位ではあったが、4回連続してオリンピック出場を果たした頑張りやメダル以上の価値があると思う。

竹内選手は世界選手権などで2位が多く、なかなか優勝という成果に結び付かなかつたという。そこで単身スイスの男子選手チームの門をたたくとき、言葉の壁を乗り越えてチームと合同練習して挑戦した姿に感動を覚える。ソチ・オリンピック後の大会で転倒してじん帯を大けがし、その重傷を克服して臨んだオリンピック。コース取りなどの不運はあったが、全力を尽くしてゴールした時の笑顔は最高に美しいものがあつた。昨年末、彼女が大会前の調整として練習場を選んでのはキトウシのキャンモア・スキービレッジである。

スキー場オープンの前、3日間におわたり朝早くから最後のトレーニングを積んでいた。キトウシでスノーボードを始め、キトウシで締めくくりたいとの思いからであつたらうか。今日までの挑戦を心から称えたい。メダルには届かなかったが、メダルへ向かって挑戦したポジティブな姿は最高に美しく、ゴールドの輝きであつたと思う。本当にご苦労さまです。

そしてまた美しいものがある。保育園の卒園式で、園長先生から園児が一人ひとり卒園証書を受け取り、お父さんやお母さんへ渡す姿も美しい。各学校での卒業式、先生との別れ、友達との別れも美しいものを感じる。お互いに信頼し合い、持っている力の限りを尽くした人間関係には熱いものを感じ、大変美しいものがある。

私たちは、外形で美しいものを美しいと判断することが多い。しかし形としては残らない出会い、人との関係、目標に向かう努力の姿にも、時として感動を覚え、美しいものがある。だからこそ、私たちは常に青春の心、目標を持ち続けたいものである。それは美しく、ゴールドな輝きそのものなのだと思う。

忠別川と共に生きて—忠別ダムふるさと誌— 忠別ダム記念誌刊行委員会／編 北海道開発局、旭川開発建設部他／刊 1987年



29年の歳月を経て2007年に完成した忠別ダムは、ダム湖の下にかつて美瑛町忠別地区が広がっていました。この本は、消えゆく故郷の思い出を残すために編さんされました。入植時の様子、当時の農業の風景、忠別小中学校の思い出など、当時の写真とともに地区の開拓の歴史がつづられています。座談会では旧松山温泉(天人峡温泉)、アイヌの人たちとの交流などの様子も垣間見えます。

東川氷土会創立20周年記念誌

東川氷土会／刊 1985年



東川氷まつり、成人式など、さまざまな場面でいつも素晴らしい氷彫刻作品を披露している東川氷土会の20周年記念誌。氷土会創立の立役者であり創立会員だった故加賀城章さん、故松田与一さんが初めて旭川冬まつりに出場し、五重の塔を完成させた時の逸話は創成期の苦勞がよみがえります。「寒い中たいへんお疲れさま」「どうぞお好きなように」などと妻から夫に贈ったメッセージも記載されています。苦勞を厭わずに会の活動に熱中する夫に癒しの一言をかけた、あきれたりー。思わずほおが緩む場面も。

東川の本

3月25日で閉館した文化交流館図書室は、今夏開館予定の東川町複合交流施設「せんとぴゅあⅡ」に移転して装い新たに開館します。その間、毎月紹介している新刊図書、DVDの紹介に代わって東川関連の図書をご紹介します。



ひがしかわきりえ物語

東川切り絵サークル／刊 2002年



文化サークル、東川切り絵サークルの10周年記念作品集。町役場の庁舎、東川神社など身近な建築物、大雪山の山並みや羽衣の滝など雄大な自然、どんとこい祭りや神社祭での御神輿などを題材に、暮らしの一コマを見事な切り絵で切り取り表現した作品の数々を紹介しています。白と黒のコントラストだけで表現した繊細な手作業の作品が見事。